

◎景気ウォッチャー調査[2019年12月]

2019年12月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を0.5ポイント上回る39.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「消費税の引上げ以降、来客数の減少が続いており、ボーナスが支給された年末もぱっとしない。」(一般小売店)、「消費税の引上げ前の駆け込み需要の反動もあり、売上が減少している。」(家電量販店)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.6ポイント下回る38.8となった。

企業動向関連は、「製造業を中心に品質改善、故障予兆等の業務改善を目的としたI o T関連のソリューションの引き合いが増加している。」(通信業)、「前月に比べ、来客数や成約件数が増えている。」(不動産業)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加し、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を9.3ポイント上回る42.6となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を4.4ポイント上回る39.7となった。

	12月	11月	前月差
合計	39.7	39.2	0.5
家計動向関連	38.8	41.4	-2.6
企業動向関連	42.6	33.3	9.3
雇用関連(参考値)	39.7	35.3	4.4

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.8ポイント下回る43.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「コートやブーツなど高単価な季節商材が定価で動かず、ブランドより価格中心の実需商品の動き一辺倒になっており、トレンドとしての動きが店頭で全く見えないことから、今後も厳しい状況が続く。」(百貨店)、「客の買い控えが習慣化しており、優良客の来店頻度も減少している。」(商店街)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.4ポイント下回る44.4となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「今のところ、取引先の設備投資の再開等の予定はなく、しばらく低迷が続く。」(電気機械器具製造業)、「米中貿易摩擦の影響が欧州、東南アジアへも影響しており、特に車関連業種で顕著に現れている。当面は原料の受注量が減少する。」(化学工業)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.5ポイント下回る41.9となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少したため、前月を8.8ポイント上回る44.1となった。

	12月	11月	前月差
合計	43.9	44.7	-0.8
家計動向関連	44.4	46.8	-2.4
企業動向関連	41.9	42.4	-0.5
雇用関連(参考値)	44.1	35.3	8.8